市政モニターアンケート

「ごみ減量とごみ処理費の有料化に関するアンケート」集計結果

〇アンケート期間：平成25年10月27日～平成25年11月18日

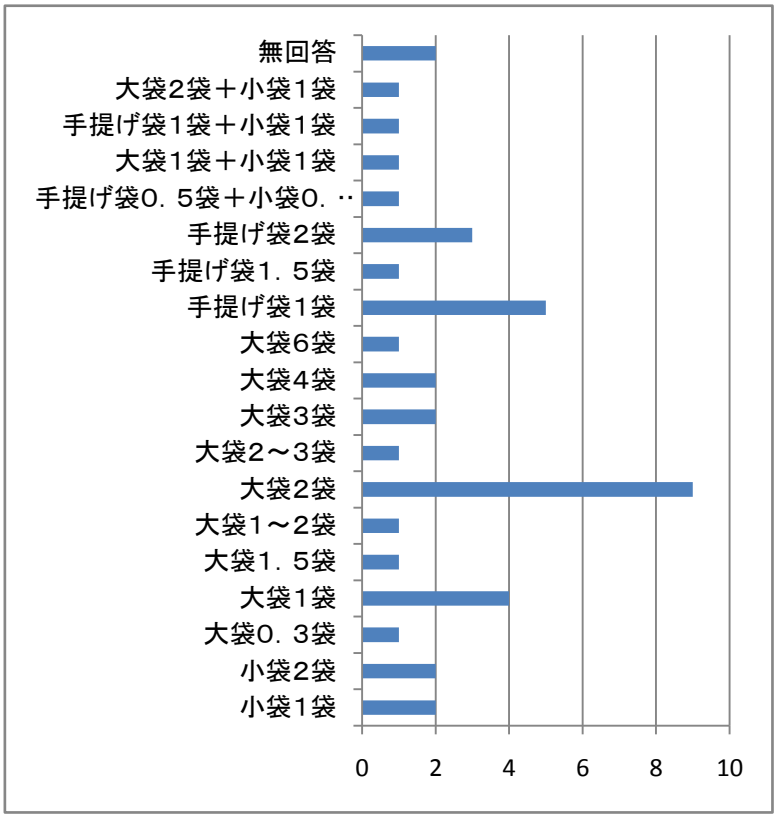
〇アンケート回答者数：41人

～アンケート集計結果内容～

Q1　あなたの家庭では、1週間に燃やせるごみ（黄色のごみ袋）をいくつ出しますか。
ごみ袋の種類別に数量を記載してください。

■回答

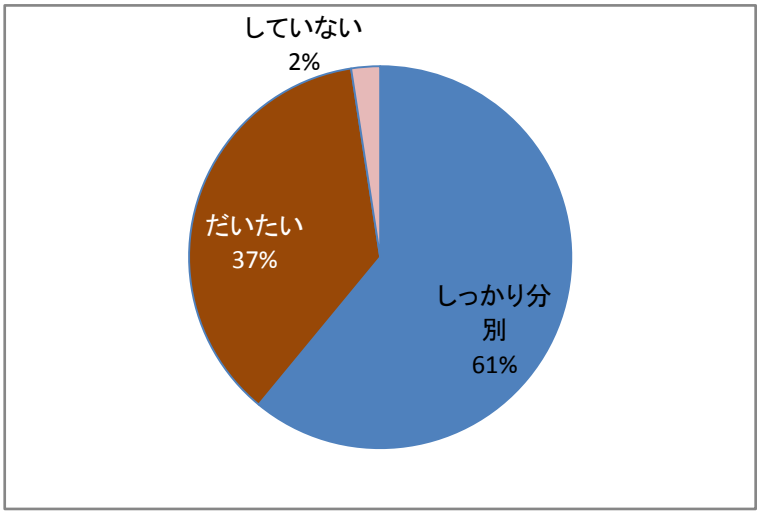
小袋1袋	2
小袋2袋	2
大袋0．3袋	1
大袋1袋	4
大袋1．5袋	1
大袋1～2袋	1
大袋2袋	9
大袋2～3袋	1
大袋3袋	2
大袋4袋	2
大袋6袋	1
手提げ袋1袋	5
手提げ袋1．5袋	1
手提げ袋2袋	3
手提げ袋0．5袋＋小袋0．3袋	1
大袋1袋＋小袋1袋	1
手提げ袋1袋＋小袋1袋	1
大袋2袋＋小袋1袋	1
無回答	2



Q2　Q1でお答えいただいたごみは、分け方や出し方により分別していますか。

■回答

しっかり分別	25
だいたい	15
あまりしていない	0
していない	1



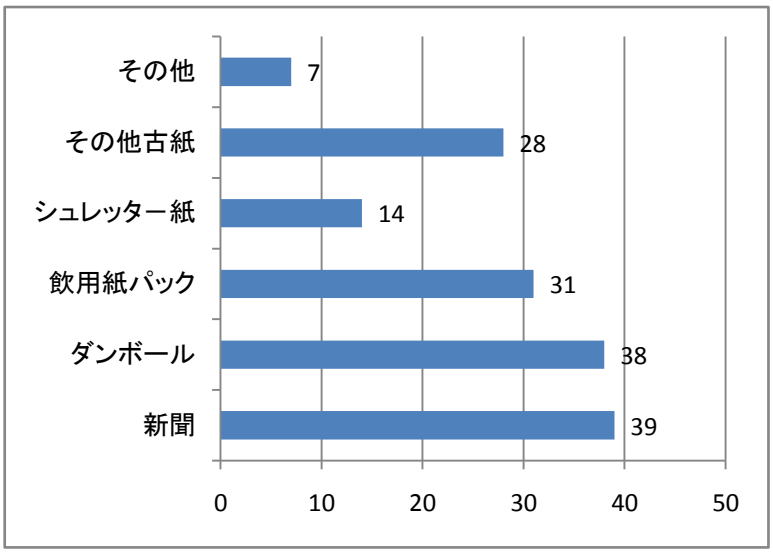
Q3　ごみ減量大作戦～紙ごみ減量プロジェクト～を平成23年度から実施していますが、取組みをされていますか。
（複数回答あり）

■回答

新聞	39
ダンボール	38
飲用紙パック	31
シュレッター紙	14
その他古紙	28
その他	7

その他の内容：

ビニールパック、スチールパック、食品トレイ、古着ペットボトル、プルトップ



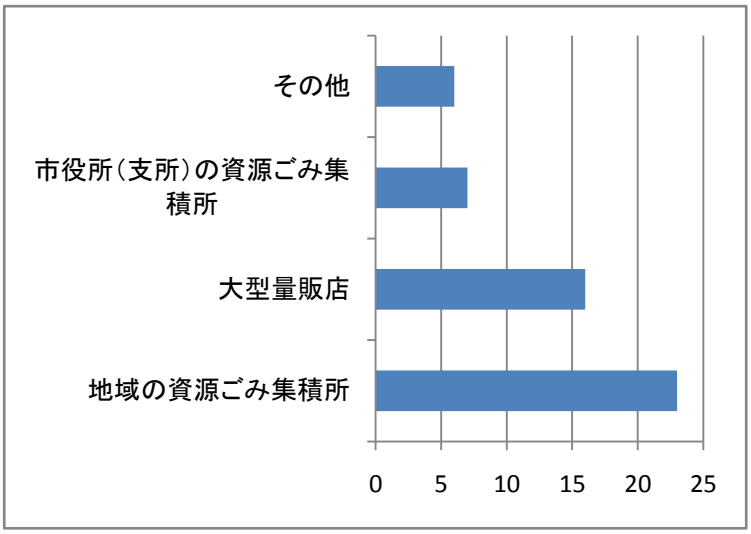
Q4　紙資源ごみはどこに出されていますか。当てはまるものに丸をつけてください。
（複数回答あり）

■回答

地域の資源ごみ集積所	23
大型量販店	16
市役所（支所）の資源ごみ集積所	7
その他	6

その他の内容：

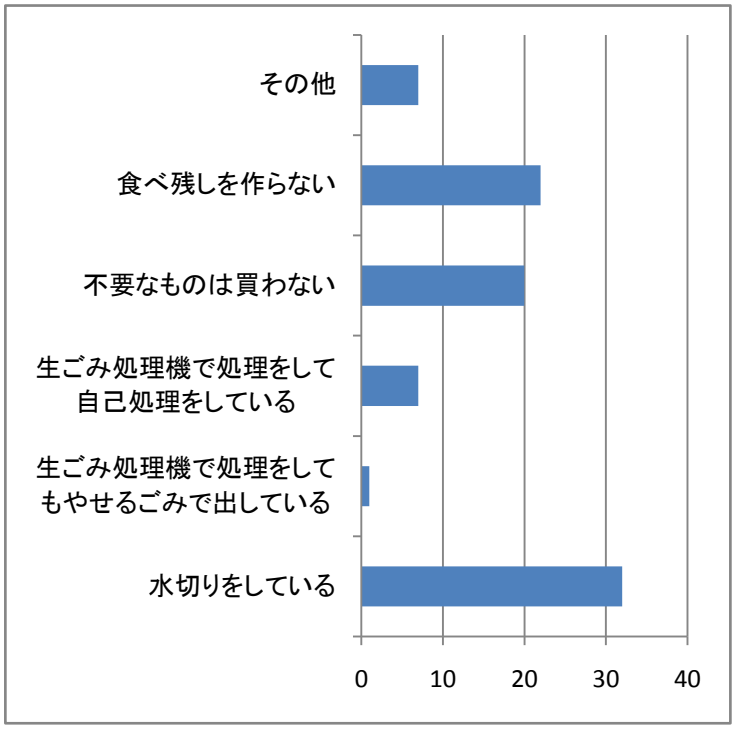
リサイクル業者に持ち込み、
自治会を通じた回収、
資源ごみ回収業者、
中学校の廃品回収、
新聞販売店



Q5　生ごみについて、減量に取組んでいますか。当てはまるものに丸をつけてください。
（複数回答あり）

■回答

水切りをしている	32
生ごみ処理機で処理をしてもやせるごみで出している	1
生ごみ処理機で処理をして自己処理をしている	7
不要なものは買わない	20
食べ残しを作らない	22
その他	7



その他の内容：

庭に埋めて堆肥にする、
田畑に入れて堆肥にする、
幼稚園の飼育動物の餌にする、
古布で拭いてから洗う

Q6　燃やせるごみ（黄色のごみ袋）の減量のために、他に取り組んでいることや取り組もうとしていることはありますか。

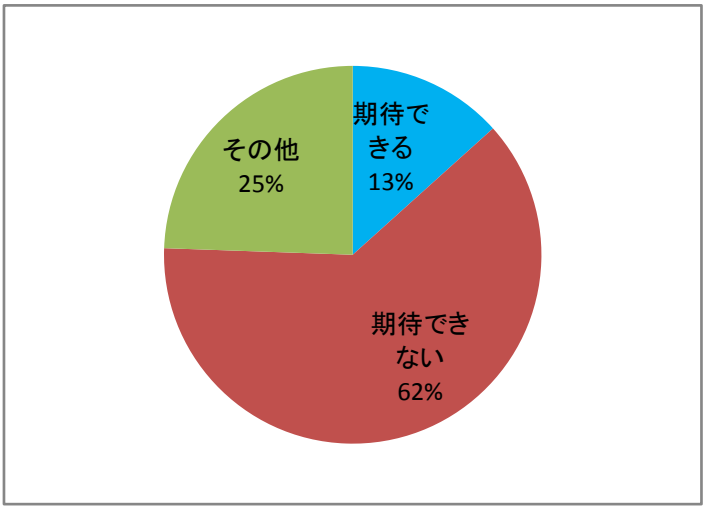
子供が小さいときは紙おむつをやめて布オムツにしていました。過剰包装を断ったり、古着などはまとめてフィリピンに送料自己負担で送っています。
マイバック持参、紙パックの分別、牛乳パックの分別等
不必要な包装は店先で断っている。菓子箱を購入するとき、手提げ袋に入れてくれるなど、断ることがあります。
会議や資料は極力データで管理し、紙資料を作らないようにしている。 家庭では仕方ないが、事業所ゴミが多いのでは？
家内が(妻)が大型マーケットに料理の材料を買いに行っていますが、このとき、自分の家にあるビニール袋や布袋を持って行き、マーケットから袋をもらわないようにしています。同様に私自身も酒等の販売店へ行っても、入れ物をもらわないように資源減に努めています。また、ゆうパック使用時にも、包装紙を少なくして送っています。
・不必要なものは極力買わない。 ・買い物に行く時はマイバッグを持っていく。 ・リサイクルできるものはする。
以前に生ゴミから堆肥にして減量する取り組みをしましたが、続きませんでした。今は紙ごみの分別をきっちりして減らしています。
・靴などの箱入り商品の箱は、持ち帰らず中身だけ持ち帰る。 ・シャンプー、洗剤等、詰め替えのある商品を選んで購入する。 ・コンビニで、品数が少ないときは、袋じゃなくてテープを貼ってもらう。
大型店のゴミ分別を利用して、持参しています。
草刈り後、数日乾燥させ減容してからごみとして捨てている。
不要なものは買わないようにすること。 できるだけリサイクルへ回すようにすること。

マイバック持参で買い物に行く。食品トレーはスーパーの回収ボックスに持っていく。 商品を選ぶときは詰め替え用を購入する。
自然の土に返せるものは家族で処理するようにする。
・以前から気になっていたが、レジ袋はモノを捨てるのに空気を含み膨れ上がり、とてもかさばってしまう。最近お金を取るようになり、大賛成！ ・コンビニにおいてある外のゴミ箱に、買いに入るのではなく通りがかりゴミ袋を捨ててすぐ出ていくのをよく見かける。観光で来た人たちや夏になると浜でバーベキューをしているのをよく見かけ、そのあとは、そのあたりがゴミの山に…。そして、カラスが散らかし汚い状態になる。例えば、夏場に環境監視員の方を任命してパトロールを置き、環境税として取るべきだと。外から遊びに来て楽しむのは構わないのですが、マナーが悪いのには閉口です。 ・別荘として利用している方が、分別ができなく、自治会の人たちが困っていることをよく聞く。別荘利用者に対しても、市側から規則を徹底してもらう。
リサイクルできるものはリサイクルする
必ず畑に捨てる方がいい！
・再利用するものがないかよく調べ、リサイクルに努めている。 ・創意工夫して他のものor合わせて1品として利用する。 ・生ごみと落ち葉を混ぜて堆肥化し、家庭菜園で利用する。
・チャレンジゴミ袋に入れ、ステーションに持ち込んでいる。 ・商品購入時過剰な包装はしないようにしている。
・マイバック持参 ・トレー、卵パック、ペットボトルなどは量販店に持参
家に自然のコンポストでできる限り生ごみは堆肥化しています。狭いですが、家庭菜園ぐらいの敷地があるため、可能です。
詰め替えパックを買うようにしている（洗剤・シャンプー・リンス等）
最低限の大きさでごみをまとめる。
減量に努める初歩として買い物袋はいつもカバンに入れています。カップ入りは買わないようにしています。マイボトルを常時持ちます。屋外のごみ（草とか）は水分が切れるまで乾燥してから出すようにしています。
学校で行っていることですが、校内・外でゴミを集めた後、燃えるゴミを1つの袋にギチギチになるようにつめなおして、空いた袋は洗って次のゴミ集めや校内のゴミ箱に取り付けて再利用しています。

Q7　家庭用ごみ袋（黄色のごみ袋）について、排出者の名前を書いて出すことについてどのように思いますか。

■回答

期待できる	6
期待できない	28
その他	11



その他の内容：

・ プライバシー保護のため反対
・ ごみ減量に結び付かない
・ 市民の負担になることは好ましくない
・ 意識が変わると思えない
・ トラブルになったことがあるので反対
・ そこまでやる必要はない

Q8　どのようにしたら、燃やせるごみ（黄色のごみ袋）を減らすことができると思いますか。
　　アイデアやご提案をお聞かせください。

燃やせるごみの大半は草や植木の剪定したもので家庭で処分できないからごみ袋に入れて出すしかない。 高島市で植木を処分するところがないのはなぜ？１社しかない（t/34000円） 高島市で処分場ではなく植木や草のリサイクル施設は作れないのか
乱暴なやり方かもしれませんが、ゴミ袋の値段を上げる。ゴミ袋代の節約が直接「ごみを減らす」ことにつながるような気がします。 新旭は以前もっと高かったので、安くなった＝ごみが出しやすくなったような気がします。
紙の分別をすると何らかの利益があるようにしたらいいと思います。たとえば、少し負担を軽くする工夫をしたりすると、紙を分別しようという気持ちになれると思います。 　負担を軽くするというのは、資源として集めたごみを計量して何トン以上だったら、何かを少し安くするなどです。
各地区で出前講座をされたらどうでしょうか。 　ちなみに、区では、１１／４に公民館で文化祭が行われ、たくさんの人が集まります。今年は無理でも、是非機会を作ってほしいと思います。婦人会なんかも良いかもしれませんね。（年輪会も） 　子ども会やPTAを通じて実施してもよいのでは。
家庭でごみを減らしても、外出先、ファーストフード店などのごみが多くある。コンビニごみはすごい。 コンビニの容器等を工夫されれば減るのでは？弁当ゴミ等。 生ごみは個々で気をつけていても限界がある。最初から出さないことが一番ではないか。
①各家庭状況をごみ担当者(家庭の)としてその数等をいつも見ているので、第一は、ゴミを減らすため、買わなくても良い不要なものを買わない習慣を徹底すること。この件については、市でやかましく言っても徹底できないので、 ㋐区長などに依頼する。（区長が直接区民と話す。結構聞いてもらえます。） ㋑区長のもとで働く評議員や民生委員を活用して、その地域の方々と話し合い、料理の材料についての井戸端会議的なものを開いて、不要なもの(生鮮食品)をなるべく買わない方向で話す。 ②黄色いごみ袋を減らすことは大変難しい面がありますので、「市政モニターを集めての学習会」を開き、話し合いをしていただけると対応策が出てくると思います。
1)有料にする。 2）市の規定外の物や粗大ごみなど、回収しないようにする。 　理由　（町が汚くなれば、市民が考えるようになる。） 3）市や、公共団体のチラシや、通達は最小限度にする。 　理由　（同じような事が係を変えて届く事が多い。もっと統一した市政運営をするように。） 4）処理施設を市民に見学してもらう。
今回の研修会でも、区長に依頼するようにと提言がありましたが、地元の方のお話を聞くと、区の力、区の結束力は想像以上に強いと察せられます。それを大切にしながら、区単位で楽しく減量を競う。あくまでも楽しみながら。勿論結果を公表して！ 今回の研修会で初めてゴミの処理費用が税金の4分の１が使われていることを知りショックです。大変なことだと気付きました。きっと私のような人が多いのではないでしょうか。環境政策課では減量に向けて取り組みをされたとおっしゃいましたが、実際に、現在まで私には何も伝わってきていないのが現実です。データの精査と再検討を！そして一層の努力を！
多種の分別とリサイクルの強化
ゴミ袋の価格を今よりさらに引き上げる。分別ごみに対するポイントの付与など。
新聞折り込みが多すぎる、区長配布で配られる各種チラシが多すぎる。これらがごみを増やしている一因ではないか。情報化時代でいろいろな情報が溢れ、市民は選択に苦慮しているのではないか。配布物の減少に努めるべきでは。

私が思うに、家庭から出るごみをせっせと減らそうとしているみなさん方の意欲は大いに評価しますが・・。
今の世の中、生活が豊かになり効率化するにいたっては、家庭ごみが増えるのは仕方がないことなので・・。それを、無理矢理減らそうとすれば、野焼きや不法投棄が増えてしまいますから・・。
私は、家庭から出るごみを減らそうという発想から離れて、です。
家庭から出るごみを減らそうというのではなくて、家庭から出るごみは全て分別して出してもらって・・。それで、出てきたごみをきちんと収集してリサイクル処理するシステムと、そのルートを構築することが肝要かと考えます。
例えば、私の場合ですが、ごみを出すことは負担に感じますし、決して楽しいことではありません。それでも、ごみを集積所にごみを持っていくのは、ただ家がごみ屋敷になるのがいやなだけのことなのです。
ですから、今の制度で行っている公的なごみ収集に、私はこれ以上に分別収集などに協力するのは正直言っていやなことのですねえ。おいおい。
しかし、私にはそんなごみ出しを負担に感じずに、むしろ楽しいと思えるようなごみ出しルートが存在します。 そのひとつは、リカーショップのアルミ缶収集です。
私は、月に1回の特売日にリカーショップで缶ビールなどを購入しに行きますが、そのついでにビールのアルミ缶を持っていきます。 つまり、ごみ処理の為だけにアルミ缶を出しに行くのではなく、ついでに行くのですから、これはまったくごみ処理の負担にはなりません。それに、1缶当たり1円のポイントは付与されるので、これがちょっぴり楽しい。
つまり、ビールのアルミ缶のごみ処理という観点からみれば、それが人の負担にならなくて楽しいことなのですよ。
もうひとつは、平和堂安曇川店の新聞紙や雑誌類の回収です。
これも、新聞紙や雑誌類が一定量たまると、買い物ついでに持って行きますから、ごみ出しの負担にはなりません。そのポイントを貯めれば（これは増えることが確実なので）これもちょっぴり楽しみなのですよ。

ここまで書けば、もうすでにお分かりですよねえ。
市民のごみ出しを、負担に感じさせず逆に楽しみに昇華できるシステムとそのルートづくりを構築することが大切なのですよ。
で・・。具体的には・・。
例えば、大型スーパーなどの各種店舗とコラボして、その店舗を訪れるお客さんに家庭で分別したごみを出してもらえるようなルートを構築するのです。 例えば、月に1回程度、その店の駐車場の片隅を借りるなどして、です。
例えば、発砲スチロールの食品トレイ10枚で1ポイント、牛乳パック10個で1ポイント、ペットボトル10個で1ポイント、スチール缶10個で1ポイント・・などなど。
そんなエコポイント制度を市で制度化し、そのポイントはコラボ店でも使用できて、また市の税金の支払などにも充当できるなんてことになれば・・。
高島市民のみなさん方は、せっせせっせと家庭でごみを分別し、ごみ出しする日がもう楽しくて楽しくてたまらなくなるんじゃないでしょうか。
そこで、市が負担するエコポイントの費用も、公的収集ごみの減少による収集委託業者の委託料の削減によって、充分にペイできるはずですからして。
その究極の有様は、生ごみのごみ出しですよ。
これを、そのルートに乗っけて収集し、生ごみを肥料にリサイクルできるシステムが構築できればですよ・・。
それが、おのずと焼却ごみの超減量化につながるのではないでしょうか。

商品を購入すると、どうしてもごみが出るのが現状です。ある程度は仕方ないとは思いますが、メーカーや販売者のごみを出さない販売の工夫が必要かと思います。また、それを支援する自治体のバックアックでよい方法がないものかと思います。
リサイクル業者さんのポイントカード方式、資源ごみの量で商品券に還元するやり方は有効だと思います。何かメリットや目に見える特典があると、より励んで取り組めると思います。
小さい時からの習慣や教育も大切かと思います。学校教育でより具体的な仕組みを勉強し、まずはこどもたちに興味関心を持ってもらうこと。それが、20年後、30年後のすばらしい未来につながると思います。

・不要な物を買わない。
・販売店側の包装を少なくしてもらう。
・野菜、肉、魚等は、専用の袋を使う等して包装を減らす。

現状、税金から1袋400円のごみ処理費がかかっていることを明示して、1人当たり何キロのごみ減量をしたら税金から何円の負担が減るって、もっと身近で財布に直結したアピールをする。

トレイやペットボトルなどを分別して、家庭ごみ袋に入れないようにする。 大型店へ持参する。
ごみを捨てるとより損をする方式よりも、ゴミを捨てなければ得をする方式の方が訴求性があると考える。加えてごみ処理は実は高額の処理費用がかかるという事実を認識してもらうことも大事だと考える。そこで私は次の提案をする。まずゴミ袋代をかなりの高額とし、税金で賄っているごみ処理費用をすべてごみ袋代に転嫁する。浮いた資金で市税納税者には世帯に応じてあらかじめ設定した年間割り当て枚数のごみ袋無料配布（若しくは無料引換券の配布）をし、1年後余った袋（または券）は換金できるようにするのである。ごみを出しすぎて袋が足りなくなったときは高い袋代を払わねばならずゴミを減らそうと考えるだろうし、逆に袋が余った場合はお金が戻ってくるので、ごみを減らした甲斐があったことを実感できる。この方法だと無料配布量の設定を調節することで市が目標とするごみの量に合わせやすいメリットもある。
燃やせるごみを出来るだけリサイクルの方へ回すように努める。
・地道に住民に喚起する（例えば、防災無線で月１回ごみ分別依頼をすること）ことを継続する。今までの広報活動で、自治会役員、環境委員などの一部の関心ある人だけが減量化に取り組まれており、多くの人々まで浸透していないと思う。 ・現在、大型スーパーで実施の持ち込み紙ごみに対するポイント付与を、他所（例えば別の大型スーパーなど人が良く集まる店舗）に拡大すること。 ・少量剪定木片、木枝、草花などを無料で捨てる場所を設ける。（庭木の剪定木枝、草刈切端などを黄色いごみ袋に入れて出す人が多くおられると聞くので、それをなくせば減るのではないか。）受け取った無料木片は、たい肥化して市民に有料低料金で還元するシステムをつくる。
まずゴミ袋の値段を高くすることで、市民のゴミに対する意識を持たざるを得ないように環境をつくることから始めていくことが大切であると思います。未だにゴミはタダという考えが、皆の心の中にあり、どうしても他人事のようにとらえがちですが、自分がお金を払うとなれば、できるだけゴミの量を減らすように心掛けると思います。
・防災無線を使って訴える。 ・もっとわかりやすく、ごみ焼却に税金の４分の１もの市税が使われていることを回覧で回す。（子どもから大人まで良く分かるように） ・細かい単位で出前講座をする ・生ゴミ処理機の個別を徹底する（助成金を増やす）
・生ゴミは専用に収集してもらう。（生ゴミを堆肥として利用するのに、専用の施設を作る）→その方が税金の無駄遣いを減らすことにつながらないか？
ゴミの収集日を月８回～９回を、（冬場などは）６回～７回に減らす。ごみ収集日が少なければ、ゴミ袋の数も減る。 家庭での保管する場合、２つの袋で出していたものが、１つになったりする。
シュレッターと火をつけて燃やすことです。または使った紙の裏が白紙ならば、白紙の部分をメモ帳に使いきることです。ノートを作ることもできます。 生ごみは堆肥になるので、畑に捨てると良いとのこと！
原点は、個人（各家庭）のマナーの良否。継続した指導と確認 １．買うとき（１）余分なもの、使い捨ての品物は避ける→粗末大敵 （２）食材は毎食購入すること。家族数の分、適量。買いだめはやめる ２．分別の確行：特に水分を含む可燃ごみは、水切りを十分行い軽・少量に ３．リサイクルに努める ４．自治会（区）、学校、事務所、その他組織・段階に呼びかけ、協力依頼 ５．人の集まる場所へのポスター、標語etcの掲示による啓発運動の励行 毎月発行される広報「たかしま」の小学生標語欄のページを増やす ６．二酸化炭素の悪影響、エコライフの重要性をあらゆる場面で教える
・１袋焼却するのに係る費用を積算し、１家庭で週１袋減量すれば高島市全体で１年間で？？？円節税できると市民に説明し協力を仰ぐ。 ・燃やせるゴミ専用の袋を用意し、一般ごみ回収時同じように回収する（月１回でも）。分別意識も上がり、ごみステーションに持ち込む手間が無くなり協力を得る事が出来る。
市全体で例えば、毎月第２週を減量キャンペーンを行うと市民の減量に対する意識が高くなると思う。
各家庭や企業、団体への「ごみ減量作戦」をもっと周知する。燃やせるごみ以外も、他県で取り組んでいるところも参考にする。

短期的決戦で望むなら値上げが最適でありますね。しかし、これは最終手段であって、いかに現行の料金で減らせるかが問題です。まず、考えられるには、袋に搬出者の名前を義務付けることも必要ではないかと思います。しかし、住民からは抵抗はあるでしょうね。次にごみ袋を透明化することはどうですか。ごみの中身が見えることで、搬出者の心をゆさぶり、減量に貢献するものと思われます。ただ、大津市では袋の周囲を見えないように新聞紙で囲んで出すということをしているので、これをどう意識改革するかでしようね。また、もっとごみ処分料金の明確化をすべきと思います。このごみ袋を使用するとコストがこれぐらいかかりますよとか、わかりやすく明示することで、反応は変わるのでないですか。次に、今は家庭の主婦が中心ですが、子供たちにもっと処分料金について学習をしていただき、子供を動かすことによって子供から忠告されれば、大人の意識も変わるのではないかと思います。最後に分別の徹底をしリサイクルをした住民にはポイント制を設け、そのポイントにより現金もしくは、商品券を発行するシステムを考えてはどうですか。この程度しか浮かびませんよろしくお願いします。
・黄色いゴミ袋大の処理に400円もかかっているという事実は、今回の研修会で初めて知りました。この具体的数字をもっと広く市民に知らせると、より意識が高まると思います。（税金の4分の1がごみの処理費用という事実ももっと知らせるべきです） ・これ以上減らさなければ、ゴミ袋の値上げもやむを得ないという達成可能な数値を示してはどうでしょうか。
分別している人と分別していない人との差が大きいと思います。分別している人にこれ以上求めても、全体としての減量には、それほど期待できないので、分別していない人に協力してもらうしかないのでは？ 家庭においては主婦が主にやっておられると思うので、今一度わかりやすい写真付き（絵ではなく）見やすい（大きな）冊子にして（老人から子供までが分かるような）配布してみてはどうでしょうか。男の人にも協力してもらえるように、区や勤務先で分別の細かい指導を見てもらうなど。
・生ごみ処理機、コンポストの推進徹底 ・紙ごみ分別の徹底 ・高齢者世帯の紙ごみ回収に「自治会主体の回収作業」を定期的に実施－－－業者との契約推進
前回の研修会でも上がりましたが、明確な数字を示して、市民にどのように効果があるのかを提示しての呼びかけが良いと思います。
ポスターとか市の主要なところへの張り出しも大切ですが、縮小印刷とかされて全戸回覧されることの方が効果があると思います（ビラ1枚）。市の意気込みが感じられると思いますが。 ゴミ問題は市民の問題です。もっと積極的にされた方が良いんじゃないでしょうか。 たった年1回、それぞれ地域の環境委員さんの研修 もっと連携を取られて地域から風が吹けば、前向きに減量作戦に弾みがかかると思いますが。
・各地域にもっと紙ゴミの分別の仕方を説明する（私はこのアンケート資料でアイスのごみやお酒の段ボールは特殊加工されていることを初めて知りました。） ・1つの袋にちゃんといっぱいになるまで入れるようお願いする。
・リサイクルなどできるものはしていくといいかなと思いました。

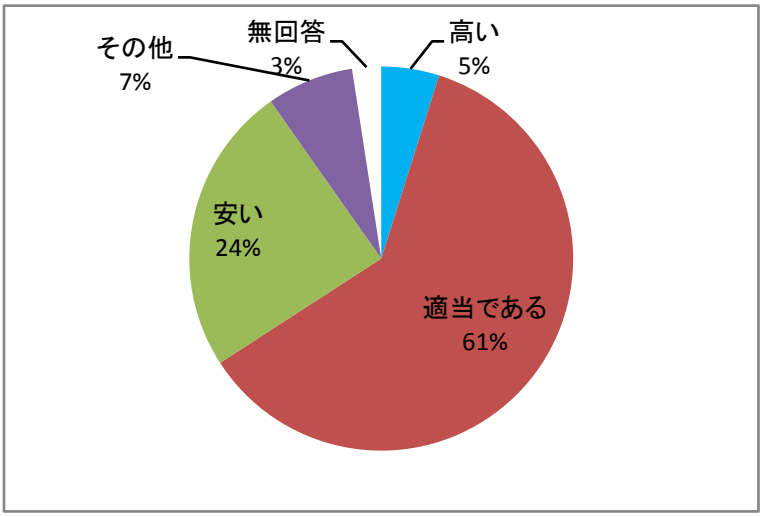
Q9　家庭用ごみ袋（黄色のごみ袋）について、現在のごみ袋の価格をどのように思われますか。

現在のごみ袋の価格（参考）

手提げ　60ℓ　11円／袋　　大　　60ℓ　10円／袋

■回答

高い	2
適当である	25
安い	10
その他	3
無回答	1



その他の内容：

・　他市に比べると安い。このことを明確にして市民に考えてもらったら受け入れられると思う。

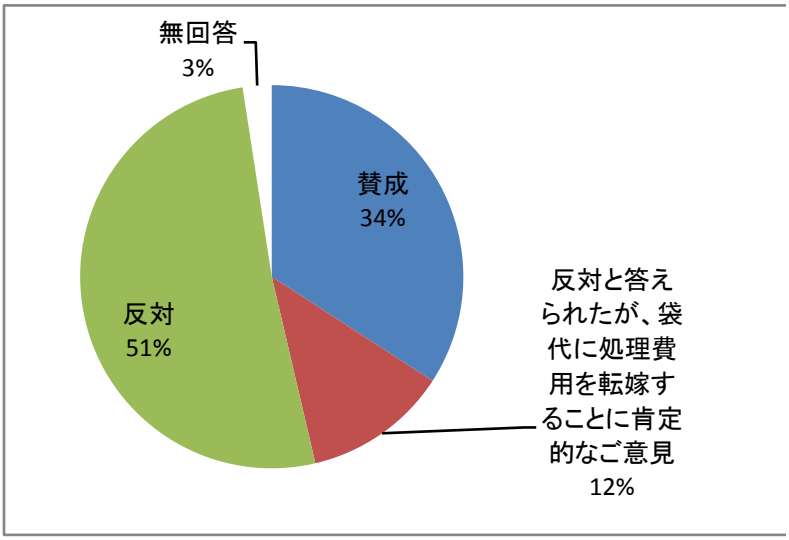
・　現在の価格に慣れているので、何とも言えない。

・　わからない

Q10　家庭用ごみ袋（黄色のごみ袋）で出されるごみについて、袋の代金以外にごみ処理費用の一部を負担することについてどう思いますか。

■回答

賛成	14
反対と答えられた方のうち、袋代に処理費用を転嫁することに肯定的なご意見	5
反対	21
無回答	1



■賛成の方のご意見

生活するのに大きな打撃がなければ大丈夫かなと思ったからです。
個人の意識向上のため、やってみるのもよいかなと思う
多く出す人、多く出す企業に負担していただくのは適当だと思う。
処理費用に使われるなら
電気代等と同じように使用量に応じた負担は賛成です。焼却にかかる費用や税金からの負担を正しく理解し、ごみ減量の意識を高めて減量につながる事を期待します。
ゴミ袋代は、袋代だけやったことを今回、初めて聴いて驚き！焼却・処分費も含まれているものと思ってました。それくらい、市民には情報が伝わっていない（私だけかも）。で、市の財政状況等でその負担比率が変動することがあっても当然、ごみ処理費用の受益者負担が当たり前！
ごみ処理にかかる費用を市民が負担するのは当然。ただし、ごみ処理費用が少なくなれば、その余剰金は市民への還元として返金される制度でなければならない。また、この還元は平等に享受されるのではなく、ごみ減量に協力した者だけが享受されるしくみが必要。

ゴミの減量化を意識していない人が、ごみの減量化について考えるきっかけになると思う。
お金を払うことがおしいから、少しでも出さないように！との心掛けが芽生えると思うので、減量につながると思う。
ごみ処理費用の一部を市民が負担すれば、ゴミの量がかなり減るとは思いますが、あくまで一部負担は最終案であるべきだと思います。
少しぐらいの負担なら、減量に協力できると思います。やはりゴミ袋が高いと、むやみに再利用できるごみを捨てない人が増えるのでは？
他地区との比較でもかなり低価である。 受益者負担は高齢者には負担を強いるが、世帯別販売価格は設定できないか。（65歳以上世帯・・・〇〇%引き価格等）
やむを得ないのなら負担額を増やすのもありだと思います。ただ、増加分は、袋の代金の中に入れるのが一番良いのではないかと考えます。
ゴミ処理をしてもらっているのだから、その一部を負担するのは別に苦にならないと思ったからです。

■反対の方のご意見

処分費用の内訳も分からないのでは・・・・どんぶり勘定していますか。
徴収の手間を考えると、コストがかかりすぎると考えられるため。
60歳ぐらいまでの人（20歳代～59歳）で会社等に勤務されている人は処理費は支払えるが、60歳以上で年金生活者の方々は食べていくのが精いっぱいで、なかなか余剰の金はなく、処理費の支払いに苦慮する状況にあります。本当は、ごみ処理費用を支払う必要があると思いますが、税金（市民税）で賄えると助かります。
今の段階では時期尚早と思いますし、安易なごみ有料化は不法投棄を招き、かえって処理費用や手間が増えることになります。それより、もっと市民への啓発に工夫と力を注ぎ、住民の意識が向上してから後、どうしても必要ならば、有料化を検討してください。啓発が足らないです。
炉の修繕費用や運営コスト等を考えると妥当な金額であれば値上げの検討も構わない。しかし単に値上げをするだけでなく、排出するゴミ袋の数を少なくすれば支払いコストも抑えられる（ゴミ袋に支払うコスト削減）ように、各家庭の努力がコストにも反映されることが望ましい。
受益者負担の原則から言えば、ごみ処理費用の一部負担も有りのようにも見受けられますが、それは詭弁です。 一般ごみの収集処理は市の行政義務なはずなので、先ずはなんでこんな設問が必要なのかを、市民に広く提示することの方が必要なのではありますまいか 。 たぶん、ごみ処理費用の負担の大きさからの設問なのでしょうが！？。 いきなり、賛成か反対かと言われれば、そんなの反対に決まってるでしょうが。
家計的に受け入れ難い
家族が少人数のため
費用負担が増えれば、道端などに不法投棄される人が増える。
その前に、もっともっとごみを減らす運動をする。
その他の行政で、無駄な負担（費用）を減らす努力をしてほしい
消費税かな
会場でも何人かの人から指摘があったように、ゴミの処理費用が多額になっているから安易に値上げをする方法を模索するのではなく、計画が未達成の場合には、反省し、その原因を解明し、現在の対策がこれでよかったのかを検討し、更なる改善策を工夫して実行し、それをやりつくした上で、それでも上手く行かない時に値上げの提案をするというステップを踏むべきだと思う。 具体的には、①環境センターにおけるゴミ種類別処理コストの把握、②焼却炉の更新投資を減価償却費として計算してトータルとして年間処理コストの低減化のための適切なゴミの処理方法の検討、③それを踏まえて可燃ごみを減らし資源ごみにすることにより環境センターにおける年間処理コストがいくら削減できるので、市民の協力を要請する、④それを行った実績を公表し、⑤成果が未達成であった時は、その原因を分析して対策を立て、実行する。

処理費用を一部といえども個人が負担することに賛同できない。処理にかかわる事業は、すべて行政組織体が担当するものである。 万一、負担する場合、いつ、いくらetc案を早期に種々組織、グループとの検討・協議する必要がある。 市民にも公開する。
市民が取り組みに賛同して、やってみて、効果が出なければ、一部負担も仕方がない。
どんな形でされるのか？答えが出ません。
一部とは、いくらか分からないと賛成できません。

□反対と答えられた方のうち、袋代に処理費用を転嫁することに肯定的なご意見

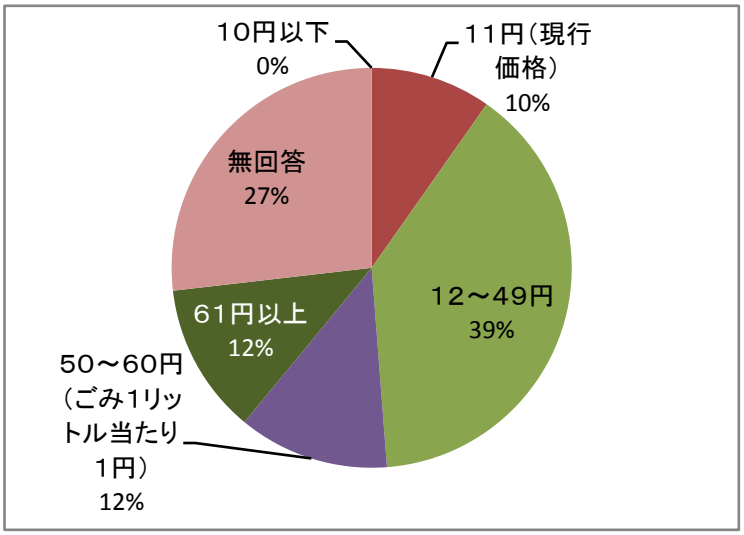
公平な負担ができないと不公平感が生まれる。ゴミ袋の値段を上げるのが一番公平な気がします。
袋の代金を値上げして、ごみ処理費用を削減すべきと考えます。
別に取るとイメージが悪いので、むしろゴミ袋代を値上げした方が良いと思う。ゴミを出す人がごみ処理の負担を負うようにした方が良いと思います。
設問の意味が良く理解できません。焼却費用の負担は袋に転嫁するのが良いと思います。
袋代を上げる

Q11　家庭用ごみ袋（黄色のごみ袋）について、今後値上げする場合にいくらぐらいが適当と思いますか。

■回答

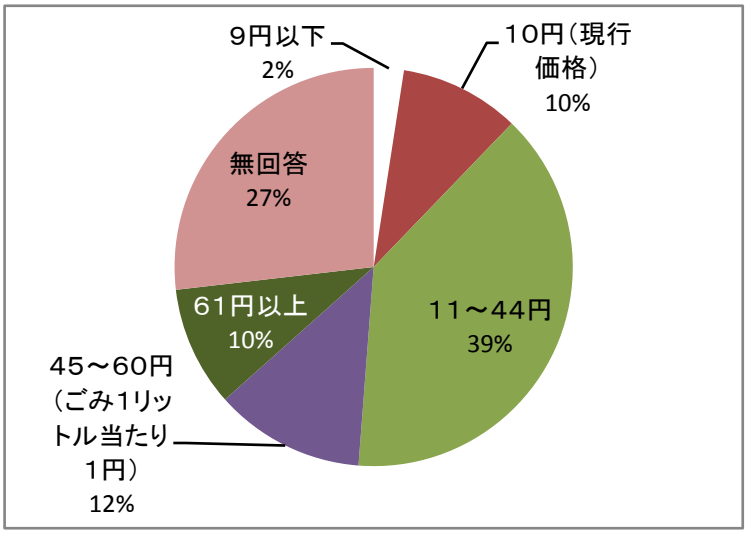
≪手提げ袋≫

10円以下	0
11円（現行価格）	4
12～49円	16
50～60円（ごみ1リットル当たり1円）	5
61円以上	5
無回答	11



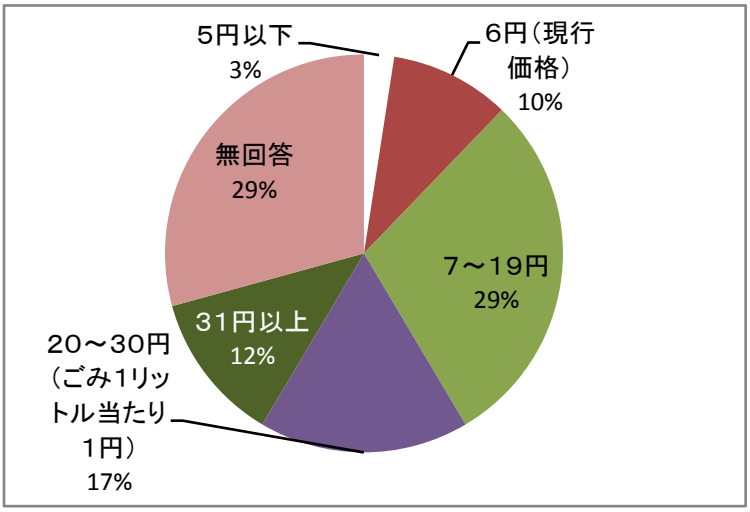
≪大袋≫

9円以下	1
10円（現行価格）	4
11～44円	16
45～60円（ごみ1リットル当たり1円）	5
61円以上	4
無回答	11



≪小袋≫

5円以下	1
6円（現行価格）	4
7～19円	12
20～30円（ごみ1リットル当たり1円）	7
31円以上	5
無回答	12



ごみ減量とごみ処理費の有料化に関するその他のご意見

ごみ袋の値上げや焼却費用の負担は必要だと思いますが、そうする事により一部の人が家庭ごみをコンビニなどに捨てに行くなどの行為が増えるのではないかと懸念します。 まちなかのゴミ箱の設置を制限するなど、併せて検討すべき事項も多々あると思います。 また、快適な生活とごみの問題は切り離せないと思います。負担を増やすことでより厳しくなる人も中にはいると思います。
・紙ごみ減量プロジェクトをやっていると言っても、目標の達成率には、遠く及んでいないのは、お役所仕事的にやっていることで帳消ししているだけのようにしか見えない。それに、遠く及んでいないのにかけ離れた目標値をまだ上げていることに対しても、保身！？ ・先日の研修会に来られていた担当者の方は、高島市でごみのことを一番知っていなくてはならない人だと思いますが、個々のごみ分別ごとの金額を把握していないというのは、タイマン！がっくり！コスト意識がない。そんなことでは、ごみ減量と言ってもしれに携わる職員に伝わらんやろし、第一、市民も動かん！それが、今の結果ですよ！ ・採算性の考慮が必要やのに欠落してるし、全体を民間に委託とかの試算とかないのかな！？ ・研修会でどなたかもおっしゃってましたが、目標値をトン数表示ではなく金額表示にされた方が市民に具体的で伝わりやすいと思います。 ・先日の研修会に来られていた担当者の方には、熱意を感じなかった。内容把握できてない。質問に応えている姿も、検討しますとか、国会議員の答弁のような先送りとかの実のないもの。
以前住んでいた自治体では、ごみ分別の徹底と減量を目的として10種類のごみ袋を作成しそれぞれに分別する運用にした。また袋の単価も高く値上げし、記名制に変えた。しかし、一般市民からの不評を買っただけでなく、他人の出したごみ袋を開けてそこに自分のごみ（当然分別していない）を捨て、出す者が増え始め、結局モラルの低下を招いただけでごみの減量に繋がらなかった。このことから安易に、単純なごみ袋代の値上げや記名制の導入には反対します。（市税還元制度のある袋代値上げなら賛成ですが）
私達の日常、周辺には不要・無駄と思われる広報紙、広告用紙が多量に流布されている。例えば、新聞広告など、特に遊技場の広告など一度も目を通さず、すぐに捨てるものがある。民間の発行物で行政の規制範囲外のもので如何ともし難いと思うが、広告塔にするとか紙に頼らない方法を検討してもらうよう、要請や指導をしては如何ですか。 市関係では、広報紙やPR誌、カタログ、チラシ、ポスターなどは必要最小限の発行にとどめ、代わりに防災無線などの利用活用を促進してはどうか。
「ごみ減量大作戦」で取り組みをされているとは思いますが、まだまだ分別ができていない。 ゴミステーションで黄色い袋の中を外から眺めていると、特に紙資源ゴミが目立ちます。 学校等へ普及活動に行かれていますが、子どもたちは理解していないし、炉を1基休める事がいかに大切なのか、広報、防災無線を通して市民に知らせるべき。 市の税収の約25%を費やして、ごみ処理をしている実情をほとんどの人は知らない。現状をお知らせすることによって、1人ひとりが自覚を持てると思います。 市民の皆様にいかにしてお知らせするか考えてほしい。

質問ですが、住宅地なので草や木を買ったとき、捨てる場所がないので、黄色いごみ袋で出しています。これらはどのようにして処分するのが良いでしょうか？こうした細かいことを知らない人が多いと思うので、指導していただけるとありがたいです。
ごみ減量大作戦～紙ごみ減量　　のネーミングは変えるのが良いと思う。 理由：ごみ処理費用を抑制することが最大の目標とするのであれば、「可燃ごみ減量作戦」にすると市民に親しまれる。 紙ごみ（ごみというから袋に入れて可燃ごみの日に出す）は、資源として再利用できることを強調すべきである。 自治会（区）長時代の苦労談 1．分別しない、排出禁止品を出す 2．期日前に出す、また、指定袋以外のビニール・紙袋で出す。 3．改修集積所周辺の散乱（野良犬、ねこ、カラスによる被害の対応） 4．走行中の車からの投げ込み 5．空地への不法投棄 6．雨水、大風によるバイパス方向からの流出処理 　昭和の初・中期では、モノ不足が当たり前の時代であって、始末（節約、モッタイナイ）するということが、知らず知らず大人も小人も身に付いていたのである。現在のような「ごみ処理」について問題はさほど話題にはならなかった記憶がある。裕福になった今、モノ余り、使い捨て現象では、モノの価値が薄れてしまっている。 　使わないもの、食べきれないもの（不要）は、手に入れないことを家庭も社会も一丸となって、幼少のころから躾をすることが大切であると思う。